

◎パチスロ蒼天の拳2

2010年5月にボーナス+ART機として約9万2000台が市場導入され、登場するやいなや、人気を博した「パチスロ蒼天の拳」。その後継機が、6月16日からホールに導入されます。ループバトル型ATといった北斗系の王道は継承しつつ、中段チェリーのアツさにより重きを置いた、同機の魅力に迫ります。

ループバトル型AT、G数上乘せ型AT、プレミアムATという3種類のAT（純増約2.7枚/G）を搭載。2頭の龍と羅龍盤の可動役物を搭載した専用筐体「双龍天羅」を生かした演出も必見。



©原哲夫・武論社 / NSP2001, 著作権証 YKU-127 ©Sammy

北斗最強の“中段チェリー”

純増約2.7枚のAT機で、AT初当たり確率は1/299~1/204。出玉率は97.1~113.7%、コイン単価は約3.5円、1000円あたりのベースは約30Gです。

■3種類のAT

ATの初当たりパターンはレア役による直撃と規定G数消化の二つ。中段チェリー獲得時のAT当選期待度は25%以上です。

ATはループバトル型AT「宿命の刻」、G数上乘せ型AT「激闘乱舞in上海」、プレミアムAT「天授の儀」の3種類。

「宿命の刻」は前作のループバトル型ARTを継承したATで、1セット20G（最低2セット保障）。ATに突入するつど、レア役による継続率昇格抽選を行います（継続率70%~89%）。

残り10Gになると、バトル演出が発生。前作は拳志郎が「敗北しない」か「敗北する」という継続分岐パターンしかありませんでしたが、今回は「勝つ」パターンを新搭載。拳志郎が勝つと、上乘せ特化型AT「激闘乱舞in上海」へ移行します（引き分けなら、「宿命の刻」継続。負ければAT終了）。

「激闘乱舞in上海」はG数上乘せ型ATで、突入時、30・50・70・100・200Gから初期G数を決定。消化中は、レア役で直乗せを抽選します。

また、レア役もしくは25G周期の抽選で、新搭載の中段チェリー高確率ゾーン「刮目の刻」へ。同ゾーンには四つのステージがあり（それぞれ基本7G）、いずれも中段チェリー当選確率が通常時の40or80倍にアップします。

そして、中段チェリー成立でバトル演出に。勝てば上乘せ特化ゾーンの「百裂拳チャンス」（ボタンの連打でG数決定）か、「秀宝乱舞」（1セット5Gのループ型。中段チェリー出現率が通常時の約100倍）に移行します。

拳志郎と宿敵・劉宗武の一騎打ち演出「天授の儀」は、「蒼天の拳」ぞろいから突入するプレミアムAT。1セット18Gです。後半の8Gでバトル演出が展開され、拳志郎が負けないかぎり、「天授の儀」は継続（継続率80%）。獲得期待枚数は約2000枚です。

■進化した「北斗カウンター」

ATの前兆演出「北斗カウンター」は、よりアツい演出になりました。

前作は、「北斗カウンター」をリールの左右に搭載。中段チェリー、もしくはスイカに当選するつど、カウンターに最初表示される「32」という数字が減っていきましたが、今回は、液晶画面の左右上部に搭載された龍役物が放つ“電撃”によって、画面上にカウンターが出現。さらに、龍が液晶

との連動演出により、カウンターに炎を吹きつけると、中段チェリー出現率が10倍以上に。氷雪を吹きつけると、30倍以上にアップします。

前作同様、北斗シリーズにふさわしい内容です。AT機としてのゲームの流れは王道で、演出もわかりやすい。また、「パチスロ輪廻のラグランジェ」で話題を集めたサブルールが本機でも搭載されており、4号機時代をほうふつとさせるリール制御が楽しめます。

スペックも、AT初当たり確率が設定1で1/299でありながら、天井が777G。運用が難しく思えるかもしれませんが、小役確率などでバランスをとっているのでは…と私は見えています。

販売台数は約5万台だとか。サミーのAT機はどれも結果を残していますし、特に北斗シリーズの信頼度の高さは言うまでもないこと。パチスロは当面、販売機種が少ないことも考えると、それなりの台数を導入するだけの条件は整っているといえるでしょう。

PROFILE

糸柳達成（いとやなぎ たつなり）
株式会社アテイン 代表取締役
関東の老舗ホール企業で約17年半勤務。店長としても新規・リニューアルを含めて6店舗を経験。業界歴は25年以上。現在はホールコンサルタントのほかにも店長研修、セミナー講師、集客企画などマルチな活動を行っている（詳しくは<http://at-attain.com>参照）。「パチンコ必勝ガイド」「パチスロ必勝ガイド」など、ファン雑誌への登場も多数。